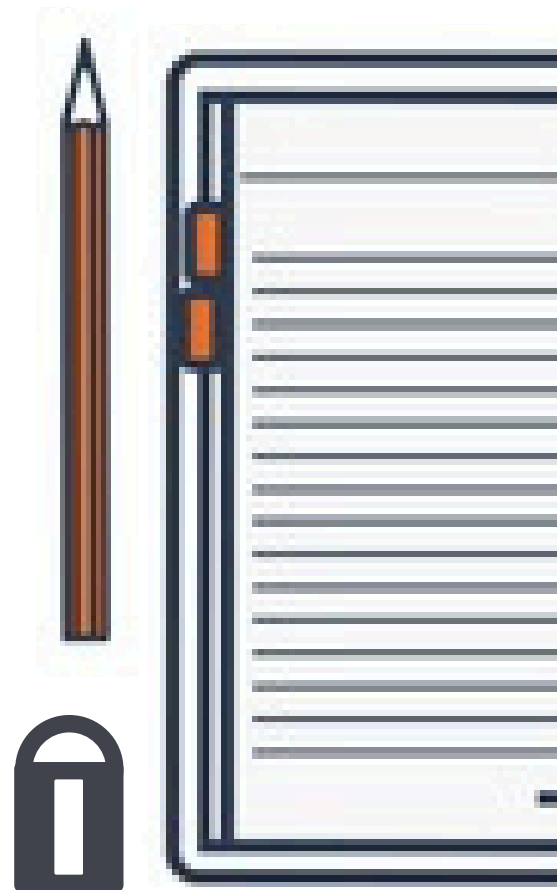


北海道地方ESD活動 支援センター 2025年度レポート



北海道地方
ESD活動支援センター
ESD Resource Center of Hokkaido, Japan



ESD (Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育) は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。また、ESD はSDGs の達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、国連教育科学文化機関 (UNESCO) は2019年には、新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて (SDGs for 2030)」を採択しました。これを踏まえ我が国も関係省庁が第2期ESD国内実施計画 (2021年) を策定し、5つの優先行動分野を設定して進めています。

ESD 活動支援センターは、ESD を推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方 ESD 活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス (地方EPO) に開設され、学校教育や社会教育における ESD を推進しています。

地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」等との連携のもとに、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

地域ESD拠点 (地域ESD活動推進拠点)

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまに「地域ESD拠点」として登録をいただいています。

地域ESD拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り込まれるESDを様々な形で支援することで、「ESD推進ネットワーク」において中核的な役割を果たします。登録をお考えの皆さまは、ぜひ地方センターにご相談ください。



地域ESD拠点について
(ESDセンターHP)

- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイバル深川（深川市）
- 7 ネイバル北見（北見市）
- 8 ネイバル森（森町）
- 9 ネイバル厚岸（厚岸町）
- 10 ネイバル砂川（砂川市）
- 11 三笠ジオパーク（三笠市）
- 12 ネイバル足寄（足寄町）
- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）



北海道内の地域ESD拠点
(2026年3月現在・登録順)

- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 株式会社アレフ えこりん村事業部（恵庭市）
- 20 NPO法人さっぽろ自由学校「遊」（札幌市）
- 21 合同会社エゾリンク（札幌市）
- 22 チトセコ（千歳市）※新規登録
- 23 自然文化団体ノノオト（斜里町）※新規登録
- 24 札幌市円山動物園（札幌市）※新規登録

地域ESD拠点 プロジェクト協力

北海道地方センターは、地域ESD拠点の活動への企画協力等を行っています。本年度の主な取組は以下のとおりです。

●合同会社エゾリンク

エゾリンクでは、体験重視・対話型の教育プログラムを開発、実践しています。同社の炭素循環を体験的に学ぶ環境教育プログラム「カーボクエスト」のwebアプリ版の開発にあたり、円山動物園での実証イベント（札幌市 4/13）の企画支援等を行いました。

●NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト

エコビレッジとは環境負荷の少ない暮らしと住民が支え合う仕組みを実践するコミュニティです。農業体験や共同作業を通じた学生や企業等の研修受け入れや持続可能な暮らしや社会についての学習機会の提供を行っています。

今年度は主にユースを対象としたwell-being研修の開催協力をはじめ企画協力を行いました。



ESD for 2030 学び合いプロジェクト 気候変動教育

ESD推進ネットワークは、SDGs達成に向けた教育分野の取組として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」を進めています。地方センターではそれぞれが気候変動を切り口としたESD「気候変動教育」を進めています。

●脱炭素社会の実現に不可欠な「気候変動教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく、社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには、多くの人々が気候変動対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れていくことが求められます。

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」となるよう、ESDの充実が期待されています。しかし国内の学校では、教科としての環境教育は実施されておらず、多くの人々がレジャーなど様々な目的で訪れる社会教育施設においても、気候変動に関する学びの機会は限られています。

●学校での「気候変動教育」の導入・推進に向けて

「気候変動教育」は、単にそのメカニズムを学ぶのではなく、複雑・不確実な未来にどう対応していくのか、気候変動を切り口に気づき、学び、探究を深めていく多様な学習活動です。今年度は今後の学校教育における導入・推進に向けて、道内の高等学校や関係機関、有識者との意見交換やヒアリングを実施しました。

●「気候変動教育」の実施拠点づくりをめざして

北海道地方センターでは「気候変動教育」の新たな拠点づくりに向けて、2023年度から札幌市円山動物園と協働で「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を実施しています。

([15](#) 53~54ページ)



札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園や水族館、博物館・科学館等の社会教育施設は、生物多様性の意味や地球規模の環境変化と私たちの暮らしのつながりを知る、気づきや学びの場として大きな可能性を有しています。当センターは2023年度から札幌市円山動物園と協働し、同園での気候変動教育プログラムの開発・実証を進めてきました。今年度は、前年度までの成果を踏まえ、事業継続に向けた仕組みや道内の他の動物園・水族館への展開を見据えて、企業と連携したプログラムの実践や企業との協働構築に向けた意見交換を実施しました。

●動物園で考える地球環境の未来（全2回）

気候変動の影響は動物たちの生息地に様々な形で現れており、私たちの暮らしや社会、経済にも直接・間接に影響を及ぼしています。そこで、コーヒーやスノーボードといった私たちにとって身近な話題を切り口に、飼育動物を通して生息地の環境変化と私たちの日常生活とのつながりを考えるプログラムを開発し、実施しました。いずれも動物園のスタッフによる対象動物の解説、対策に取り組む企業からの話題提供、参加者同士の意見交換という流れで実施しました。園内フィールドワークをとまなうため少人数での催行としましたが、その分密度の濃い時間を提供することができました。

主催：札幌市円山動物園、北海道地方ESD活動支援センター

第1回 コーヒーと気候変動・生物多様性

【日時】2025年8月23日（土）12:30～15:00

【会場】札幌市円山動物園 キリン館2階

【参加者】30名

【ガイド】モンキーハウス、ゾウ舎
(ダイアナモンキー、アジアゾウ)

【ゲスト】José.川島良彰さん
(日本サステナブルコーヒー協会理事長/
株式会社ミカフェート代表取締役社長)
「自然と共生するコーヒー栽培」

【内容】コーヒーの産地は気候変動の影響に直面し、栽培に適した土地が急速に失われようとしています。生息地で何が起きているのか、そこにどう向き合っていけばよいのか、現地の方の声や生物多様性と両立する伝統的な栽培方法を学びながら、美味しいコーヒーとともに暮らせる未来を考えました。



第2回 スノーボードと気候変動・生物多様性

【日時】2025年10月18日（土）13:00～15:30

【会場】札幌市円山動物園 エゾシカ・オオカミ舎2階

【参加者】18名

【ガイド】ホッキョクグマ館
(ホッキョクグマ、アザラシ)

【ゲスト】坂井健人さん
(Burton Flagship Sapporo ストアマネージャー)
「スノーボードブランドの責任と、冬と雪を未来につなぐために」

【内容】スノーボードをはじめとするウィンタースポーツは雪質の変化やシーズンの短縮といった気候変動の変化に直面しています。将来もスノーボードを楽しめるように様々な取組を行っているBurton社の坂井さんをゲストに、環境に優しいエネルギーや素材への転換、資源の循環や余剰資材の見直し、未来の雪山と地球を守るための様々な取組について学びました。意見交換では一人一人ができる事、消費者と企業の責任・役割について考えました。



●学び場の共創に向けた企業と動物園の意見交換会

気候変動や生物多様性に関する学びの場としての動物園の強みを活かし、地域の企業とともに環境教育・ESDの拠点としての機能を共創していく可能性を見据え、企業と動物園の連携に関する意見交換を実施しました。

主催：札幌市円山動物園、北海道地方ESD活動支援センター

【日 時】 2025年12月2日（火）10:00～12:00

【会 場】 札幌市円山動物園 キリン館2階

【参加者】 12社（16名）

【内 容】 ・趣旨説明/話題提供（札幌市円山動物園 佐竹輝洋さん）

- ・園内フィールドワーク（ゾウ舎、堆肥庫、オランウータンとボルネオの森）
- ・参加企業による自社紹介
- ・テーマ別意見交換



●ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム

「対話・学びの拠点としての動物園・水族館の可能性」

動物園や水族館は生物多様性保全や気候変動教育の場として重要な役割を担っています。円山動物園で3年間取り組んできた気候変動を切り口とする学びの場づくりにおいても、生き物と直接向き合い、その生息地で起きている環境変化を知り、生き物を守ることの意味や人間の暮らしとのつながりを体感的に学べる場という動物園の力をあらためて確認することができました。

このフォーラムでは、世界の動物園や水族館における気候変動教育の動向を紹介するとともに、これまでの円山動物園での取組や企業による事例を報告し、学びの拠点としての動物園や水族館の可能性、気候変動を自分事にするにはどうしたらよいか、専門家や企業の方々とともに考えました。

主催：札幌市円山動物園、北海道地方ESD活動支援センター

後援：日本環境教育学会

【日 時】 2026年3月22日（日）13:30～15:30

【会 場】 札幌市円山動物園 キリン館2階/オンライン

【参加者】 現地39人/オンライン42人

【内 容】

○講演「気候変動・生物多様性保全と動物園・水族館の可能性」

高橋宏之さん（日本環境教育学会副会長）

○話題提供

- ・「円山動物園における対話・学びの取組」
佐竹輝洋さん（札幌市円山動物園）
- ・「Webアプリを使用した動物園における気候変動教育」
安東義乃さん（合同会社エゾリンク）
- ・「学び場としての動物園への期待」
佐々木隆介さん（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）

○登壇者意見交換/質疑応答



ESDアドバイザー 派遣制度

北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育におけるESD/SDGsの導入や実践、現場の課題解決を支援するため「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝金及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

●こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」は、どのようにすれば実現できるのか？ SDGsを学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画とESD/SDGsとの関連は？ …

学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGsの教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

●登録アドバイザー ※五十音順、所属は2025年6月現在



大津和子さん

北海道教育大学 名誉教授

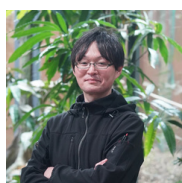
キーワード 主体的・対話的で深い学び | SDGs | 国際理解教育



金澤裕司さん

持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）理事/
（前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹）

キーワード 自然と人間 | 地域の持続的発展 | 総合的な学習による学力向上



佐竹輝洋さん

札幌市環境局 円山動物園 保全・教育担当係/
北海道大学大学院 環境科学院 非常勤講師

キーワード 自然と人間 | 地域の持続的発展 | 総合的な学習による学力向上



松田剛史さん

旭川市立大学 非常勤講師/NPOソーシャルベンチャーあんじょう家本舗 代表

キーワード SDGs | カリキュラム・マネジメント | PBL | 教育課程

●派遣制度ご利用の条件

1. 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
2. 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
3. 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
4. 宗教・政治活動が目的ではないこと



派遣制度についてはこちら
（北海道センターHP）

●2025年度 派遣実践 ※申請主体 - 派遣内容

- ・北海道石狩翔陽高等学校（石狩市）
-個別相談：探究学習へのESD導入、地学連携
- ・北海道国際女性協会（札幌市）
-会員向け講演会：ESD/SDGsの理論と実践、国際教育
- ・石狩市立花川中学校（石狩市）
-教員研修：ESD/SDGsの理論と実践、実践事例の紹介



北海道地方ESD活動支援センター
（環境省北海道環境パートナーシップオフィス内）

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階
TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931
URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>

発行 2026.3

